

さいたま市見沼田圃アクションプラン
市民プロジェクト3
『新たな交流の場の創出』

業 務 報 告 書

平成25年3月

パシフィックコンサルタンツ株式会社

さいたま市見沼田圃アクションプラン
市民プロジェクト3 『新たな交流の場の創出』

目 次

第1章	業務の概要	1
1.	業務の経緯と目的	1
2.	業務の概要	1
3.	業務の進め方	1
4.	業務の内容	2
第2章	新たな交流の場等の現状調査・整理	3
1.	対象地域	3
2.	見沼たんぼ周辺の対象地域における地域資源の整理	5
第3章	見沼たんぼの新たな交流の場を語る会	12
1.	Minucomi について	12
2.	Minucomi の開催概要	13
3.	Minucomi の記録	14
4.	Minucomi 合同発表会	27
第4章	今年度のまとめと今後の進め方	39
1.	まとめ	39
2.	今後の進め方	41
巻末資料		45
巻末資料 1.	交流の場の先進事例	46
巻末資料 2.	交流拠点の事例紹介（Minucomi 合同発表会）で 各団体から提供された活動紹介や広報の資料	54
巻末資料 3.	広報資料（合同発表会の案内チラシ）	60
巻末資料 4.	懇談会ニュース	61

第1章 業務の概要

1. 業務の経緯と目的

『さいたま市見沼田圃基本計画アクションプラン』は、見沼田圃基本計画に示された施策を着実に実施していくため、市民プロジェクトおよび、特に重点的・優先的に取り組むべき施策について、平成23年度にとりまとめられた。本計画において、基本方針を推進するための牽引役となる、地区・分野を横断するリーディングプロジェクトを「市民プロジェクト」と位置付け、アクションプランの計画期間において、重点的に施策を展開することとした。

本業務の目的は、「市民プロジェクト」のひとつ、『新たな交流の場の創出』を推進するものである。平成28年度までに、誰もが立ち寄れる見沼たんぼとなるように、既存施設等を利用し、情報発信や休憩、農産物直売等の機能を持たせた、「新たな交流の場」を創出するための運営・内容の検討を行う。

2. 業務の概要

本業務の概要は、以下に示すとおりである。

- (1) 業務箇所 : 見沼田圃基本計画の計画対象区域
- (2) 工期 : 自)平成24年6月25日 ~ 至)平成25年3月29日
- (3) 発注者 : さいたま市 都市局 都市計画部 みどり推進課 見沼田圃係
- (4) 受注者 : パシフィックコンサルタンツ株式会社

3. 業務の工程

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 新たな交流の場等の現状調査・整理										
①活動団体・先進事例等の把握		■								
②導入機能の整理			■							
(2) 市民懇談会の運営・開催										
①設立準備			■							
②必要資料の収集整理		■								
③懇談会の開催 (緑区、見沼区、合同発表会)						● 各1回	● 各1回	● 合同		
(3) 報告書の作成									■	
(4) 打合せ	○			○	○	○		○		

4. 業務の内容

本業務の内容は、以下に示すとおりである。

(1) 新たな交流の場等の現状調査・整理

①活動団体・先進事例等の把握

<現況調査>

見沼田圃周辺の農産物直売所や休耕地利用、見沼の自然をテーマにした活動を、既存資料及びインターネットを通じて情報を把握・整理した。

<先進事例調査>

新たな交流の場の先進事例について、国内から複数事例を抽出し、整備・運営スキームについて把握、整理した。

②導入機能の整理

先進事例や、見沼田圃の活動状況をふまえ、「新たな交流の場」に期待される機能やサービス、整備のあり方について検討、整理した。

(2) 市民懇談会の運営・開催

①設立準備

「新たな交流の場」に関心のある市民を募り、懇談会を開催した。公募に向け、募集案内、作業スケジュール等を作成した。

「新たな交流の場」に関心のある個人・団体に対して参加を呼び掛けた。

②必要資料の収集整理

懇談会の会議資料作成のほか、資源リストや資源位置図を作成する。

③懇談会の開催

懇談会を開催し、「新たな交流の場」の検討を行った。懇談会は4回開催し、2名のファシリテーターが出席し、議事進行に努めた。

懇談会では、新たな交流の場の先進事例や、そのあり方に関する意見交換を行い、見沼たんぼでの交流の場の必要性、期待される役割や、どんな交流を見沼たんぼでしたいか等、市民意向をとりまとめた。

(2) 報告書の作成

(1)及び(2)で収集・整理された情報や成果をとりまとめ、報告書を作成した。

第2章 新たな交流の場等の現状調査・整理

1. 対象地区

本業務の検討対象区域は以下に示す。

また、対象区域を8つのエリア分けしたゾーニングで、農産物直売所や観光農園、集客施設等の地域資源について現状を整理した。ゾーニング図を以下に示す。

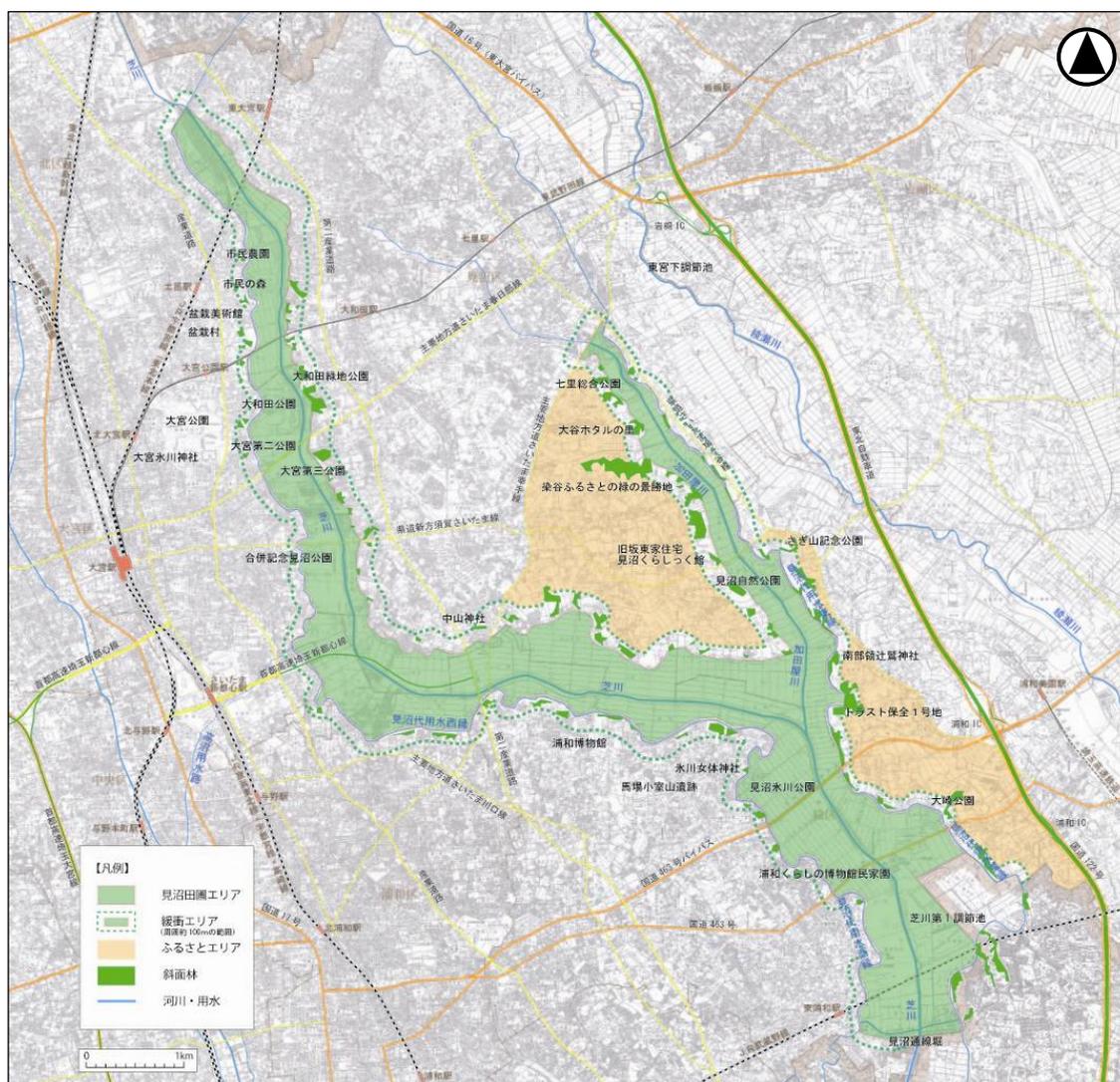


図 対象区域

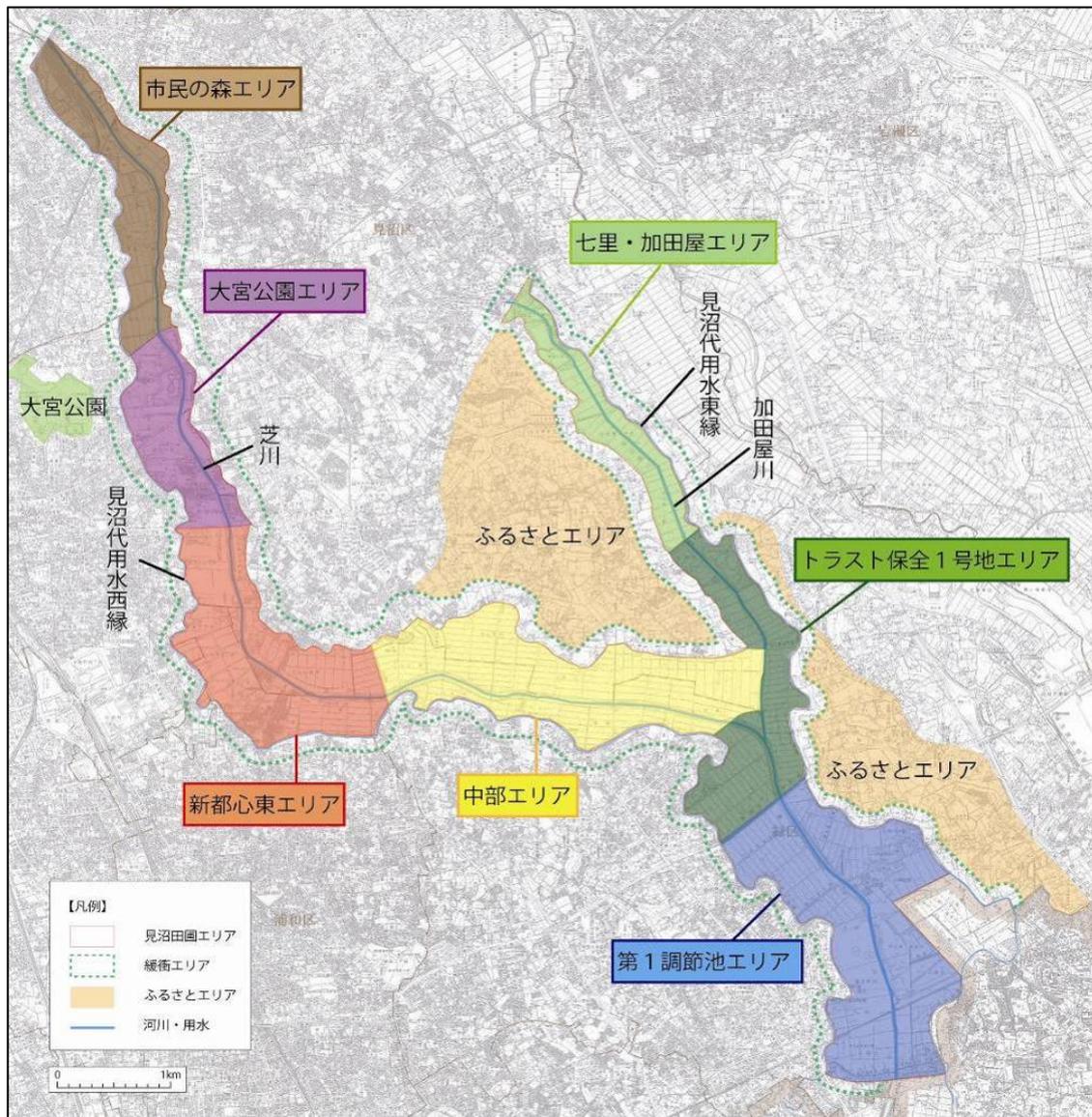


図 ソーニング図

2. 見沼たんぼ周辺の対象地域における地域資源の整理

(1) 対象地区比較結果

比較要素	概況	市民の森	大宮公園	新都心東	中部	七里・加田屋	トラスト	第1調節池	ふるさと
アクセス性	<p>バス停からのアクセスは同程度、最も鉄道駅から近いのは第一調節池エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> どのエリアもバス停から徒歩8分位でアクセス可能である 市民と森のエリアは、大宮公園駅、土呂駅、東大宮駅より徒歩でアクセス可能である 第一調節池エリアは、東浦和駅より約3分と最も鉄道駅からのアクセスが良い 	○						◎	
農産物購入 (直売所・観光農園)	<p>大宮公園エリア～中部エリア間は農産物直売施設が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> 最も直売所の多い七里・加田屋エリアでは5箇所の直売所が開設されている 観光農園は、第一調節池エリアとふるさとエリアに集中している 	○				◎	○	◎	◎
農業体験 (市民農園・農業体験農園)	<p>中部エリアに体験型の農園が集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 大宮公園エリア、七里・加田屋エリア、ふるさとエリアを除くエリアに体験型の農園が分布している 	○		○	◎		○	○	
交流施設 (集客施設、公園)	<p>第一調節池エリアに交流・集客施設が集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が多い施設としては、見沼グリーンセンター、大原サッカー場、見沼ヘルシーランドなどが見られる 	○		○				◎	
トイレ	市民の森エリア～新都心東エリアまでは、芝川沿いに1km足らずの間隔でトイレが分布	○	○	○					
軽飲食	中部エリアに軽飲食施設が充実		○		◎	○			○

(2) 地区比較表

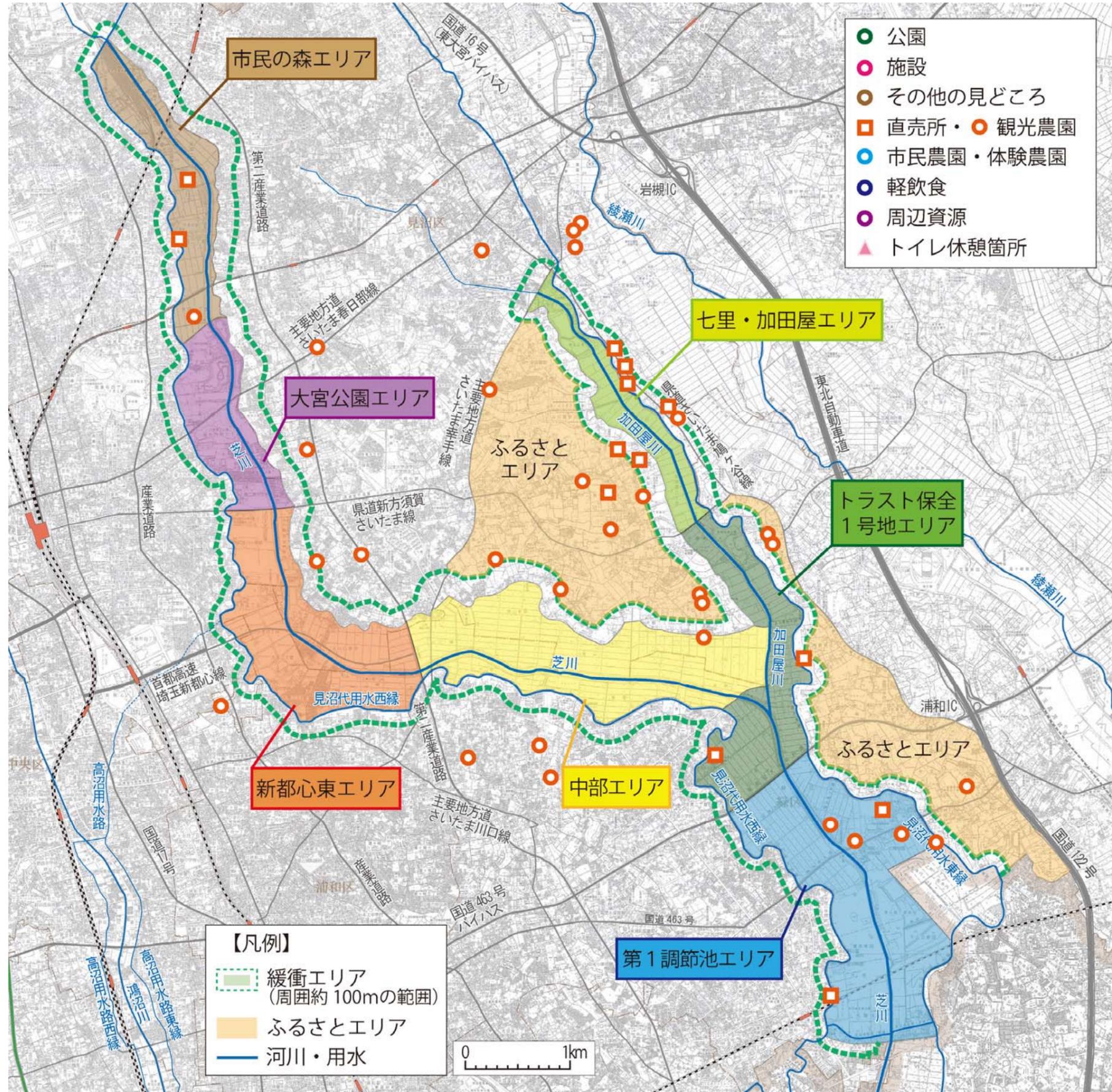
青文字…緩衝エリア内 名称★…トイレ設置施設

	アクセス (エリアまでの最短距離・徒歩時間 歩行速度 70m/分として)	直売所・観光農園	市民農園・ 農業体験農園	集客施設	主要な公園	その他見所等	エリア周辺	
							軽飲食	エリアを特徴付ける 周辺資源
市民の森 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●JR 東北本線(宇都宮線)/大宮公園駅(0.7km・10分) ●JR 東北本線(宇都宮線)/土呂駅(0.6km・9分) ●JR 東北本線(宇都宮線)/東大宮駅(0.8km・12分) ●東武野田線/大和田駅(1.0km・15分) ●国際興業バス路線(大14)などから0.4km・6分/(大47)などから0.5km・8分 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の森農産物直売所 ●JA さいたま大宮緑化木センター ●細野義憲 	<ul style="list-style-type: none"> ●子供向け体験農園(NPO) ●第一市民農園(民間) 	<ul style="list-style-type: none"> ●見沼グリーンセンター ●見沼グリーンセンター(リスの家) 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の森★ ●見沼公園★ ●見晴公園★ ●天神山公園 ●神明北公園 ●本村公園★ ●東大宮親水公園★ 	<ul style="list-style-type: none"> ●菜の花畑 ●大砂土コスモまつり ●見沼緑道 ●東大宮操車場 ●芝川土手 ●畑の風景 ●水田風景 ●神明社 	<ul style="list-style-type: none"> ●チャイニーズダイニング和空(飲食店) ●ウッディハウス(喫茶店) 	<ul style="list-style-type: none"> ●大宮盆栽美術館 ●盆栽四季の家★ ●漫画会館 ●八雲神社・砂の大ケヤキ ●高林寺 ●鷲神社 ●土呂直売所
大宮公園 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●JR 東北本線(宇都宮線)/大宮公園駅(0.9km・13分) ●東武野田線/大和田駅(1.2km・18分) ●東武野田線/北大宮駅(1.6km・23分) ●国際興業バス路線(大15-2)などから60m・1分 	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ●大和田公園★ ●大宮第二公園★ ●大宮第三公園★ ●天沼テニス公園★ ●大和田緑地公園 ●南中丸緑地公園 	●梅林	<ul style="list-style-type: none"> ●ベーカリーレストランサンマルク大宮公園店(飲食店) ●そば処 山茂登(飲食店) ●ASIAN FRENCH DINING 味市場(飲食店) 	<ul style="list-style-type: none"> ●大宮公園 ●寿能城址 ●埼玉県立博物館 ●氷川神社
新都心東 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●JR 京浜東北線・宇都宮線・高崎線/さいたま新都心駅(1.2km・18分) ●東北・上越新幹線/JR 高崎線・川越線・東北本線(宇都宮線)・京浜東北線・埼京線/東武野田線/大宮駅(3.2km・46分) ●国際興業バス路線(大12)などから0.4km・6分/(浦44)などから0.0km・0分 	●	●ハナミズキ農園(民間)	<ul style="list-style-type: none"> ●さいたま市大原サッカー場(浦和レッズ練習場) ●見沼見聞館(大宮南部浄化センター)★ 	<ul style="list-style-type: none"> ●合併記念見沼公園★ ●三崎公園 	<ul style="list-style-type: none"> ●首都高ピオトーブ ●トンボ池(H22ベンチ整備) ●浦和西高斜面林 ●見沼通船堀弁才天宗像神社 ●水田風景 ●新都心の眺め ●圓蔵院の大イチョウ ●障害者交流センター★ 	<ul style="list-style-type: none"> ●ペンギン村(喫茶店) ●美美族(喫茶店) 	●
中部 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●東武バス路線「市立病院」などから(0.5km・8分) 	●井上園芸	<ul style="list-style-type: none"> ●県民ふれあい農園 ●見沼の里の片柳ふれあい農園(民間) 	●見沼臨時グラウンド★	<ul style="list-style-type: none"> ●三浦運動公園★ ●馬場東公園 	<ul style="list-style-type: none"> ●田んぼと新都心の風景 ●斜面林 	<ul style="list-style-type: none"> ●やまぼうし(喫茶店) ●珈琲豆屋(喫茶店) ●漁火料理ととまる(飲食店) 	<ul style="list-style-type: none"> ●市立浦和博物館★ ●エリア南に市民農園多数有り

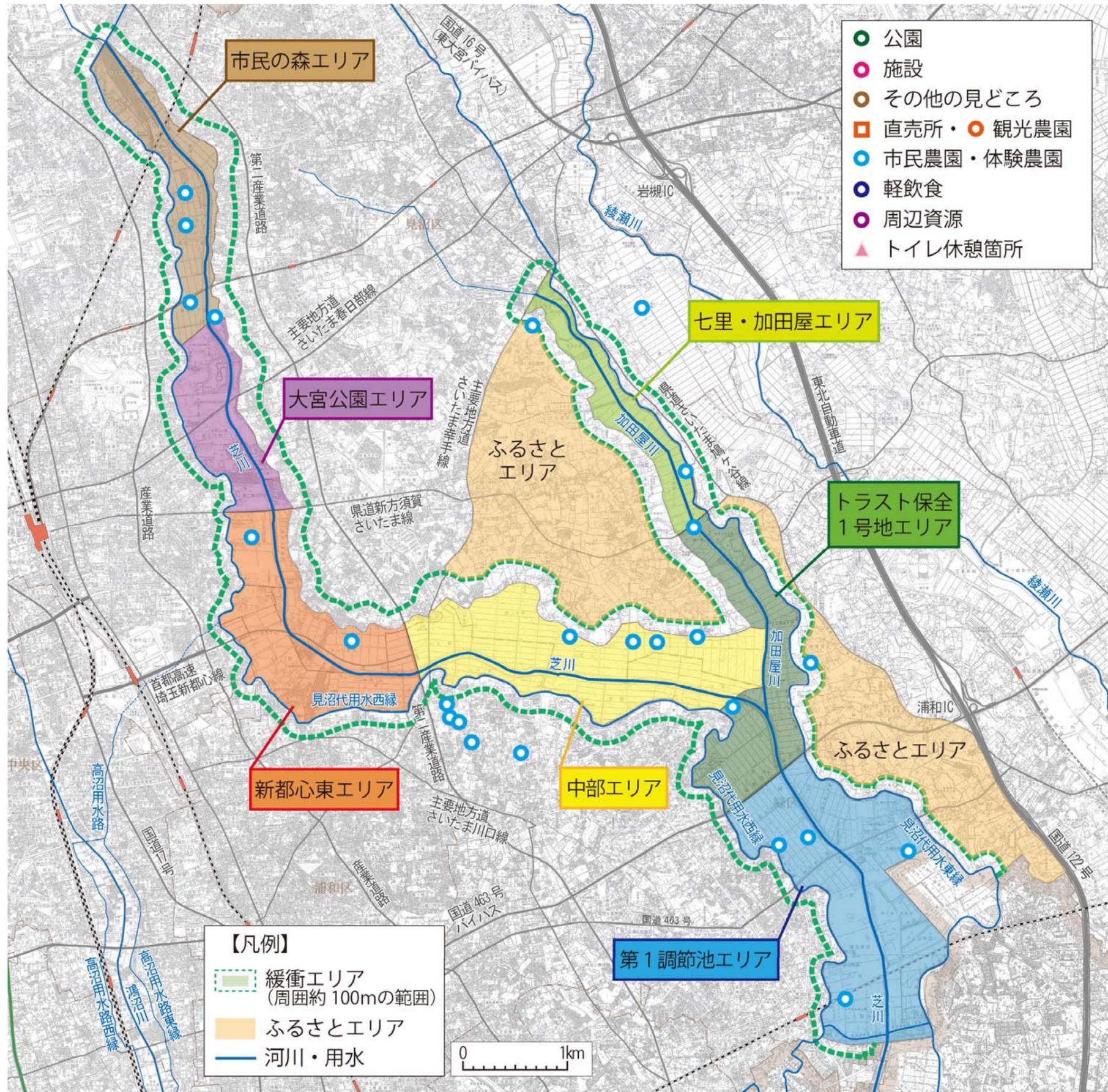
	アクセス (エリアまでの最短距離・徒歩時間)	直売所・観光農園	市民農園・ 農業体験農園	集客施設	主要な公園	その他見所等	エリア周辺	
							軽飲食	エリアを特徴付ける 周辺資源
七里・ 加田屋 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 東武野田線/七里駅(1.6km・29分) 国際興業バス路線「締切橋」下車などから0.0km・0分 	<ul style="list-style-type: none"> 膝子直売所 小島園芸 小泉園芸 杉山園芸 三枝椎茸直売所 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 旧坂東家住宅見沼くらしっく館★ 	<ul style="list-style-type: none"> 七里総合公園★ 	<ul style="list-style-type: none"> 憩いの場「加田屋風の廊下」 大谷ホテルの里 加田屋新田 西福寺★ 	<ul style="list-style-type: none"> 画廊・蔵/喫茶・薊(喫茶店) 見沼天然温泉 小春日和(日帰り温泉施設) 	<ul style="list-style-type: none">
トラスト 保全1号地 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 国際興業バス路線「締切橋」下車などから0.0km・0分 	<ul style="list-style-type: none"> 笠原園芸 みどり直売所 	<ul style="list-style-type: none"> 県民ふれあい農園 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 見沼自然公園★ 見沼氷川公園★ さぎ山記念公園★ 	<ul style="list-style-type: none"> 氷川女体神社 トラスト保全1号地 鷲神社 国昌寺★ 萬年寺★ 	<ul style="list-style-type: none"> Café La Plancha(喫茶店) キッチン+ギャラリー Tanpopo(飲食店) 	<ul style="list-style-type: none">
第1調節池 エリア	<ul style="list-style-type: none"> JR武蔵野線/東浦和駅(0.2km・3分) 国際興業バス路線(東川05)などから0.2km・3分/(浦09)などから0.3km・5分 	<ul style="list-style-type: none"> 大崎直販センター★ ブルーベリープラザウラワ フルーツパーク浦和組合 美園いちごランド 大崎転作組合 浦和軟化野菜出荷組合チコリー部会 	<ul style="list-style-type: none"> 県民ふれあい農園(3ヶ所) 	<ul style="list-style-type: none"> 浦和くらしの博物館民家園★ 見沼自然の家 見沼ヘルシーランド 見沼通船堀 鈴木家住宅 園芸植物園 子供動物園 農業者トレーニングセンター 	<ul style="list-style-type: none"> 見沼通船堀公園★ 川口自然公園★ 大間木公園 大崎公園★ 	<ul style="list-style-type: none"> 木曾呂の富士塚 	<ul style="list-style-type: none"> まいむ(喫茶店) 	<ul style="list-style-type: none">
ふるさと エリア	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 染谷農産物直売所 黒臼洋蘭園 シバタ植物園 浅子園芸 守屋シクラメン園 染谷植物園 安田園 白子果樹園 尾島農園 守屋生産農場 大原園 野菜料理「諏訪野」 農業体験「ファームインさぎ山」 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 染谷花しょうぶ園 	<ul style="list-style-type: none"> さぎ山記念公園★ 大崎公園★ 	<ul style="list-style-type: none"> 深井家長屋門 トラスト保全1号地 熊野神社 片柳の筆塚 	<ul style="list-style-type: none"> 画廊・蔵/喫茶・薊(喫茶店) 見沼天然温泉 小春日和(日帰り温泉施設) 	<ul style="list-style-type: none">

(3) 分布図

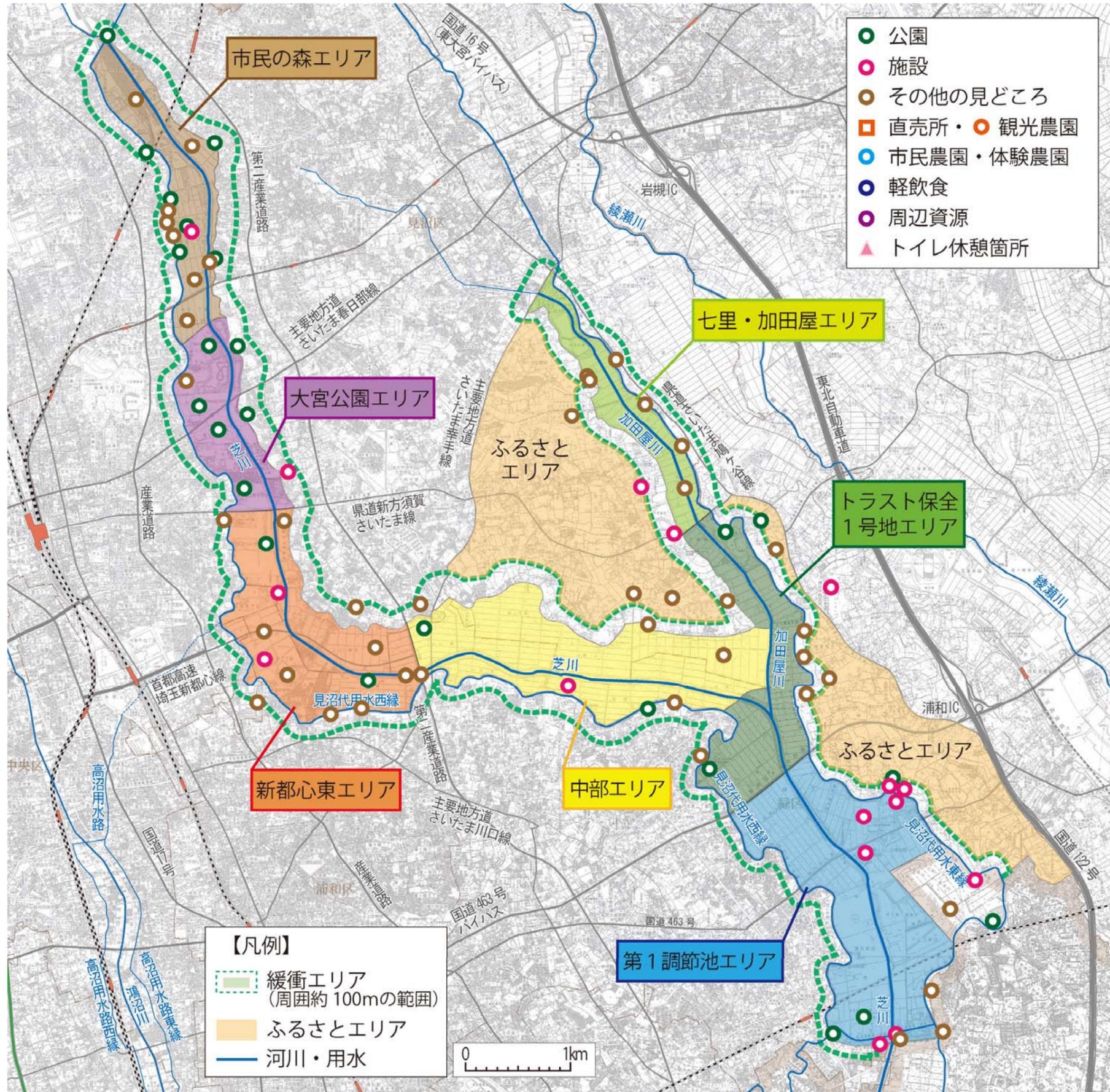
■直売所・観光農園



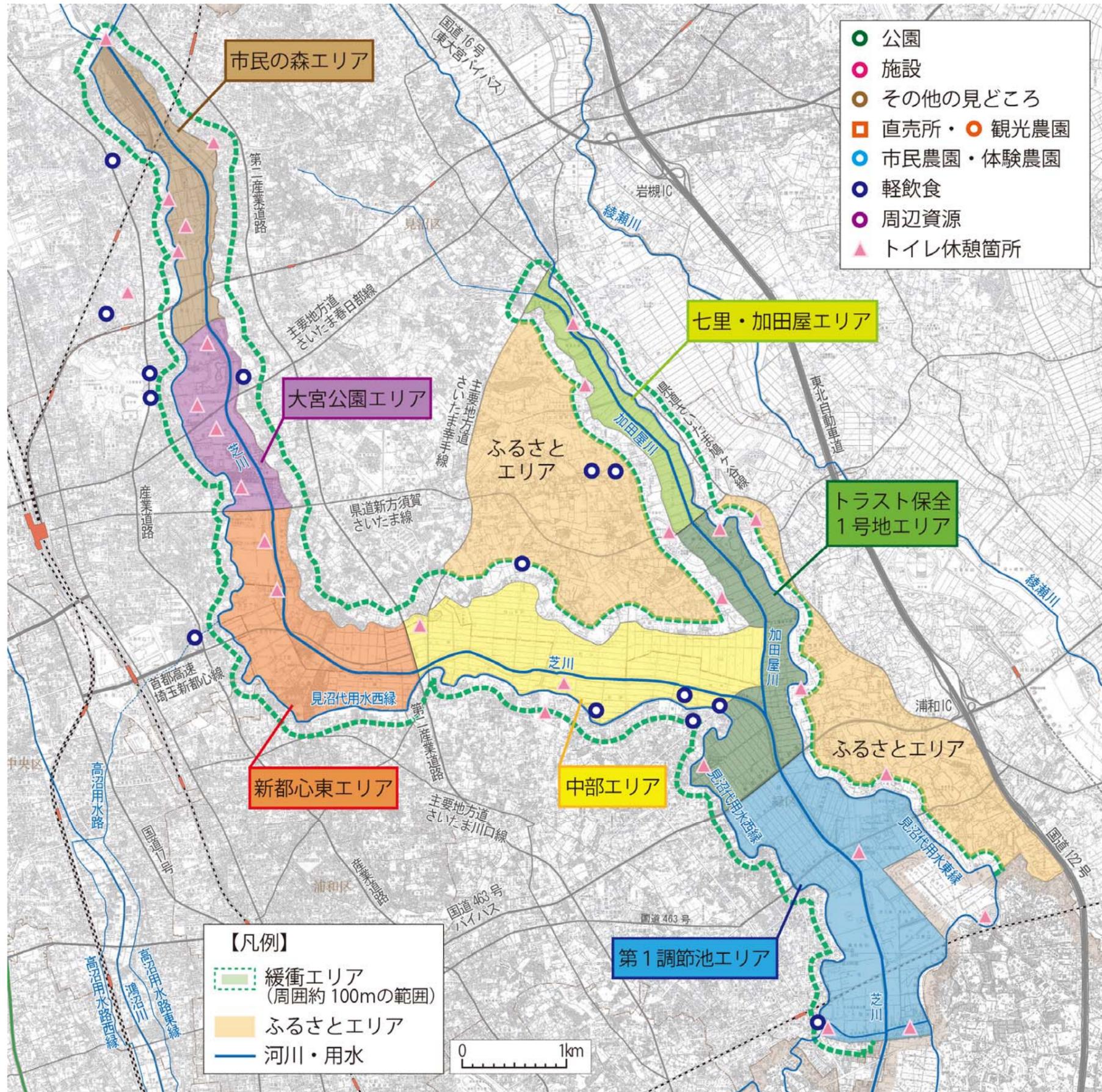
■ 農業体験施設
(市民農園、農業体験農園)



■ 交流施設
 (集客施設、公園、その他見所等)



■トイレ・軽飲食施設



第3章 見沼たんぼの新たな交流の場を語る会

1. Minucomi（みぬこみ）について

（1）名称について

Minucomi（みぬこみ）とは、「見沼たんぼ」の“みぬ”と 交流＝コミュニケーションの“コミ”をあわせて、今回の『見沼たんぼの新たな交流の場を語る会』の呼称とした。

（2）会のメンバーについて

①先行地区の選定

見沼たんぼに接しているのは、市内 10 区のうち、緑区、浦和区、大宮区、見沼区、北区の5区になる。

また、これらの5区以外にお住まいの方でも、見沼たんぼをフィールドとして活動する団体等に所属する方は少なくない。例えば、緑区の市民活動ネットワークに登録する31団体のうち9団体は見沼たんぼを主な活動地域としている。

また、各区で行われている区民会議の検討項目でも、見沼たんぼに関することはしばしば取り上げられている。

前章で調査・整理した関連施設の分布などをみても、緑区や見沼区に様々な施設が分布していることが分かる。

このような状況を受け、各区役所のコミュニティ課等にも相談した結果、今年度は、緑区および見沼区の2区を先行地区として位置付け、検討を開始することとした。

②メンバーの募集

見沼たんぼの新たな交流の場に想いを持つ人を以下の方法により公募した。

- ・ 公民館の掲示板
- ・ 活動団体へのチラシの配布
- ・ 公共施設等でのポスターの掲示
- ・ 区報
- ・ 見沼たんぼの HP
- ・ 市民活動ネットワーク参加団体へのダイレクトメール
- ・ 見沼たんぼ基本計画策定検討会のメンバーへのダイレクトメール

2. Minucomi の開催概要

見沼たんぼの新たな交流の場を語る会（Minucomi）の開催概要は、以下に示すとおりである。

	緑区	見沼区	内 容
第1回	11月10日（土） 10時～12時 緑区役所 2B会議室	11月17日（土） 10時～12時 片柳コミュニティ センター 第5会議室	新たな交流の場について語ろう！ <ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼たんぼがどのようになると良いのか ・ 見沼たんぼでやりたいこと、できるといいことはなにか
第2回	12月1日（土） 10時～12時 緑区役所 1階 会議室	12月8日（土） 10時～12時 片柳コミュニティ センター 第5会議室	新たな交流の場について学ぼう！ <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回に語った「想い」の実現に、どんな施設や機能が必要か ・ 他地域の交流の場の事例紹介
第3回	1月19日（土） 10時～12時 浦和コミュニティ センター 第14会議室	1月19日（土） 10時～12時 浦和コミュニティ センター 第14会議室	【合同発表会】 新たな交流の場について語り合おう！ <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの結果を各グループの代表が発表 ・ 交流の場実践者から、成功談・失敗談などを聞いて学ぶ ・ 意見交換

3. Minucomi の記録

緑区・見沼区の各地区において、2回ずつ Minucomi を開催した。
当日話し合っ出て出された意見を以下にまとめる。

(1) 緑区グループ

■参加者（敬称略）※あいうえお順

第1回	第2回	氏名	所属
○	○	有坂 昌平	埼玉大学大学院
	○	植木 秀視（ひでみ）	植木設計事務所
○		黒木 耕二	さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会
	○	澤田 実	見沼田圃就農予備校有志 3S会
○		鈴木 孝志	見沼田圃就農予備校有志 3S会
	○	曾根 伸穂	見沼 100 年構想の会緑支部 第3期区民会議委員 h19~20 年度
○		高瀬 清市	見沼の農業と自然を守る会
		田中 耕八	見沼の農業と自然を守る会
○	○	茅根(ちのね)大嗣	イメージクリニック
○	○	水野 晶子	見沼 100 年構想の会緑支部
	○	吉田 重光	見沼の農業と自然を守る会

■懇談会の様子



①第1回

1) 実施概要

- ・開催日時：平成24年11月10日(土)10時~12時
- ・開催場所：緑区役所2B会議室
- ・参加者数：6名
- ・実施方法：『見沼たんぼがどのようになると良いか』を中心に、『見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと』などについて、意見交換を行った

2) 参加者自己紹介

氏名	所属	自己紹介
茅根(ちのね)大嗣	イメージクリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・見沼には“美しいもの”を感じている ・何かいろいろありそうだと感じている ・見沼には自転車で行く。個々に活動はしており、皆ニコニコ楽しそうにやっている様子だが、個々の動きが結びついていないことが課題と思う ・見沼の美しさを演出できないかと、『見沼キッチン』というFBを作っている。難しいことは言わず、笑顔を掲載している
高瀬 清市	見沼の農業と自然を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・農業と自然を守りたい ・この会は20年になる組織で、主な活動内容は、毎月ゴミ集めを実施している ・農家から土地を借りて個人農園を実施 ・西縁の野カンゾウやヒガンバナ、ホタルの保存活動を実施 ・トラスト協会のメンバーで、竹林の1号地を担当している。毎月第1、第3土曜日が例会で、およそ30人が参加して山林の整備などを行っている。会員は増えている
黒木 耕二	さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会緑区支部	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り、ホタル、通船堀・・・歴史もイベントもウォーキングなどのスポーツもいろいろなことをやっているが、良さを活かしきれていないのではないか ・いろいろやっているのに知らされていない ・サトイモが有名だが知られていないし、食と結びつけられていない。うまく宣伝できるといいと思う
水野 晶子	見沼100年構想の会	<ul style="list-style-type: none"> ・100年後にも、見沼のおいしい空気を子どもたちが吸えるように、という願いがある ・友利宇景氏(パノラマ風景画家)により、貴重な自然を後世に伝えたいと願う思いで「見沼スーパー・パノラマ鳥瞰図」が描かれた ・この鳥瞰図は会員証であり、絵を飾ることで人から人へ伝承するコミュニケーションとなり、見沼の自然保全の意識への自己表現となっている、会のシンボルである ・日本未来遺産の登録を目指している
有坂 昌平	埼玉大学大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・見沼を大学の授業で扱っている。座学だけでなくフィールドワークを実践している ・現地では、見沼たんぼ地域ガイド養成講座を修了し、平成23年5月に設立した「見沼たんぼ地域ガイドクラブ」に案内してもらったり、見沼ファームを手伝ったりしている ・現地に来ると、学生の関心が高まる ・学生が来やすくなる工夫を考えたい
鈴木 孝志	見沼田圃就農予備校有志3S会	<ul style="list-style-type: none"> ・畑を借りてやっている ・見沼は良い所だが、水やトイレが足りないなど、不便に点が多々ある ・使っている立場から話したいと思って参加した ・彩りある感動のある人生、季節を楽しみたいと思っている

(※受付順に記載しています)

3) 結果まとめ

『見沼たんぼがどのようになると良いか』

- みんなで楽しく農業に携わることができ、農業で食べていける場になると良い
- 多種多様な人や要素が集まる仕掛けがあり、個々の活動や、もの、人など結びつく場になると良い
- 異世代（若者と高齢者など）が交流して活性化すると良い

『見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと』

- 農業を中心とした保全活動
- 見沼の歴史を活かした見沼の美しさを知ってもらう取組
- 異世代（若者と高齢者など）の交流

4) 詳細

出された キーワード	ご意見	
	課題	提案
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔はシジミもいた場所。水田が畑に変わってしまった ・ 遊びが中心ではダメになる ・ 遊びの場だと残っていかない ・ 体験農業だけでは継続に結びつかない ・ 個人農園が多い→協調性がなくなる傾向がある ・ どうやったら農地が借りられるのか、農地の貸し出しが分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業発祥の水田。<u>農業を中心とした保全活動</u>をすべきである ・ 農家を育てる ・ <u>農業で食べていける場</u>となる ・ 楽しく農業をやりたい。1人でやるから大変なので、<u>みんなで借りられないか</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ さいたま市外の人に来て農業を楽しんで良い ➢ 法人化し、共同でシニアで農業をやっていく ➢ ボランティアが農家を手伝いに来て農地が守られる仕組み ・ <u>荒地にしないための行政の取組も必要</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 農家と行政が話し合い、一般市民が農業に関われる、農地を使える、開かれた農地にしていく ➢ 市民農園は1年以上借りられない ➢ いろいろな規模の農業ができると良い <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新しい制度の検討</u>『クラインガルテン』や『ナショナルトラスト』

出された キーワード	ご意見	
	課題	提案
美しさ	・	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は海だった。女神が祀られていた ・ 田んぼの前の縄文時代からの<u>歴史があるから美しい</u> ・ 祭事や舞が奉納されていたはず ・ 四木竹を生かし、清めの神事を見せたい ・ 非日常であるハシの場の<u>舞台をつくり、そこで儀式を行ったり発表をしたり、多様な人が集まる仕掛けをつくる</u>
結びつき・連携	・ 流通経路が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>個々の活動や、もの、人など結びつく場があると良い</u> ・ 農産物で交流 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 収穫物を広く提供できるような道の駅のような施設 ・ <u>多種多様な人・要素が集まると良い</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ いろいろな人が居ていい。結びつきが大事 ➢ いろいろな要素があった方が面白い。面白いと人が集まる ・ 自然とつながり、人とつながり、武蔵の国でつながる地
きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流とは何か ・ きっかけ“入口”が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>異世代（若者と高齢者など）が関わりあうことで活性する</u> ・ 若者が見沼たんぼを知るきっかけ“入口”が<u>必要だ</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 若者が立ち寄れる施設 ➢ ガイドなど若者が関心を持つきっかけになる ・ 子どもたちがいてほしい ・ 田植えなど幼児が見沼たんぼに関わるきっかけになる ・ まずは農を知ってもらい、そこから段階的に関わっていけると良い ・ ゴミ拾い（の活動）も入口になるだろう
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発のあり方を考えていけないといけない ・ 新たな利用が入ると、本来の見沼たんぼの姿である農業が薄れ原形が崩れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を守る ・ 農家が働きやすくなれば環境を守ることにつながる
その他	・ 自転車が走れる道がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空撮映像があると利用イメージがわくだろう ・ 市が持っている映像などを公開してほしい

②第2回

1) 実施概要

- ・開催日時：平成24年12月1日(土)10時~12時
- ・開催場所：緑区役所 1階会議室
- ・参加者数：7名

2) 結果まとめ

『見沼たんぼの新たな交流拠点に、どのような施設や機能が必要か』

- 農業者と市民や活動団体とがもっと気軽にコミュニケーションがとれる場
- 誰でも地域活動に参加しやすくする入口となる場や情報の受け取りやすさ
- 新たな建造物ではない、既存施設や自然のフィールドの利活用
- 具体的に将来どんな姿にしていけるのか、見沼たんぼの将来的ビジョンを話し合い共有する場

3) 詳細 (斜体は1回目に出された意見です)

	見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと	交流する人	必要な施設や機能はなんですか？
農家(本業)との交流の人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者の意見を聞きたい ・ もっと気軽に話したい ・ 農家の人はどうい交流をしたいのかを聞きたい ・ 農業の実態について、互いに共通認識を持てると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者(本業)と一般市民 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をしたり聞いたりできる場(機会)があると良い ・ 本格的な農業と楽しみと、場を分ける。区分する ・ 分断せずに交流をしていきたい
農作業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアが農家を手伝いに来て農地が守られる仕組みづくり ・ さいたま市内外から人が来て、みんな農業を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の人と、地域活動(市民農園やゴミ拾い活動など)する人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の人情報が得られる場 ・ 助けがほしい農家と、農作業をしたい一般市民とが、win/winの関係になるように結び付けるシステム
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼の歴史、文化を活かした見沼ならではの美しさを知ってもらう取組 ・ 地域で大切につないできた文化を大事にしていきたい 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を守ってきた人、守ってきた歴史、伝統に敬意を払い大切にしつつも、公に発表する場や装置 ・ あまり表に出たくても出られない人たちがもっと出られるような場 ・ 既存施設の活用：民家園が良くなれば利活用できる
食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫物を広く提供できる道の駅のような施設 ・ 知られていない野菜(サトイモ等)のPR 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民農園の野菜を売るなど常設の場 ・ 加工品を売る場

連携	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある人、一般市民が気軽に活動に参加（後発だと交流の場に入りにくい） ・活動団体の横のつながりができる ・多種多様な人や要素が集まる仕掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民 ・活動団体 ・多世代（子ども、学生、シニア世代） ・市内外 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも活動に参加しやすくする。ハードルを下げる ・地域内で立ち話ができる場 ・フランクに集まれる場 ・むつめ祭など多種多様な人が多く集まる場で、活動団体が情報発信する機会をつくる ・個々の活動団体をPRする場：ゲリラ的なテント村
若い人の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代（若者と高齢者など）間交流による活性化 ・若者が立ち寄れる施設 ・若者が関心をもつきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者 ・多世代 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者が「今日は見沼たんぼ行こうぜ」と言えるような場所 ・人（若者）が来やすい場所
その他・全般	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に将来どんな姿にしていくのか、見沼たんぼの将来的ビジョンを話し合い共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・見沼たんぼに関わる多種多様な人 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設や自然のフィールドを活用する（※新たな人工物はいらない） ・活用されていない場所を掘りおこし拠点にする ・FBやブログ等SNSの集まりの場と、顔を合わせる集まりの实在の場、2つが必要 ・ハコモノよりシステムづくりが重要

(2) 見沼区

■参加者（敬称略）※あいうえお順

第1回	第2回	氏名	所属
○	○	小島 文一	地域人ネットワーク
○	○	小林 正治	さいたま市みどり愛護会
○	○	斉藤 竜大	わっ！みぬま
	○	佐復(さまた) 恵治	市民レポーター（見沼ガイドブックに携わる）
○	○	中信 光明	見沼の自然と環境を守る会
○	○	藤木 茂	大宮河川愛護会

■懇談会の様子



①第1回

1) 実施概要

- ・開催日時：平成24年11月17日（土）10時～12時
- ・開催場所：片柳コミュニティセンター 第5会議室
- ・参加者数：5名
- ・実施方法：『見沼たんぼがどのようになると良いか』を中心に、『見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと』などについて、意見交換を行った

2) 参加者自己紹介

氏名	所属	自己紹介
藤木 茂	大宮河川愛護会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川と中心とした文化・歴史をやってきた ・ 河川や河川敷の生態系調査を毎月実施している ・ 地元で大切につないできた文化をもっと大事にしていきたい ・ 地域活動の世代交代がスムーズにいかないという後継者問題がある
中信 光明	見沼の自然と環境を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼たんぼを将来どうやって残すかを考えていきたい ・ いろいろな活動はされているが、残そうとする動きにつながるのか。一度きりの単発のイベント、一過性の取組が多いように思う
小島 文一	地域人ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼区民会議やコミュニティ会議に参加している ・ 県から遊休農地を借り上げ、農業教室を実施している ・ 菜の花を育て菜種油を搾油したり、獲れたての落花生をその場で茹でて味わったり、収穫を大人も子供も楽しんでいる ・ 農業の楽しみを市民に知ってもらいたい ・ メンバーには東京で仕事をしてきた人が多くいる。スキルを活かしてシニアパソコンアドバイザーとして活躍してもらっている ・ 貨物の要所だった水運があり、物流や交流が盛んだった。柿渋など文化や産業に大きく影響を与えた ・ みどり推進課を協働して、見沼代用水を活用してカヌーツアーを実施した。県が整備したカヌー乗り場、2箇所の間1.6kmは、木のトンネルやかわけみ、斜面林など非常に自然が多く、もっと改良すれば自然を体験できる、良いスポットになるだろう ・ 瀬がないことはメリットになる ・ トラストの前に直売所があって、カヌーツアーでは立ち寄った点（個々の取組）を線をつないでいきたい
小林 正治	さいたましみどり愛護会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼たんぼでは様々な活動がされているが、関係当事者の自己満足のように感じることがある ・ 見沼たんぼは（訪れて）見る価値があるところなので、東京（外）へ向けてアピールしないといけない ・ 他所から評価されて、初めて気付くことがある ・ 多くの人に来てほしい

齊藤竜大	わっ！みぬま	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼区にずっと住んでいるので愛着がある ・ 早稲田大学院で都市計画の勉強をしている。卒論では見沼たんぼを取り上げ、農家さんが地域ネットワークをどうつってやっているかを研究した ・ 若いママさん達の活発な新しいつながり、動きに関心をもっている ・ 地域の憩いの場・ふれあいの場、としてだけでなく、都市と農、住宅地と農地が近くに混在する空間は貴重であり、こういう地域が、今後どういう意味を持つのか、広い視野でみていきたい ・ 景観、眺望が美しい ・ 活動団体や NPO 同士のネットワークなど、横のつながりが少ない
------	--------	--

(※受付順に記載しています)

3) 結果まとめ

『見沼たんぼがどのようになると良いか』

- 国の制度を活用して見沼たんぼを取り上げ、見沼たんぼをもっと外へ向けてアピールし、人を呼び込むことが必要だ
- 見沼たんぼや活動をPRし、支援者を増やしていきたい

『見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと』

- 生活の一部として楽しむ農業スタイルの実践
- 見沼たんぼをフィールドにした個々の活動団体の横のつながり強化

4) 詳細

出されたキーワード	ご意見	
	課題	提案
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業はどうしても自己満足で終わってしまうので、それをどう広げていくかが課題だ ・ 1200haのうち水田はわずか ・ 田んぼが消えたのは減反のせいだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業に従事する人を限っている日本の制度のあり方を見直せないか <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生活の一部として楽しむ農業のスタイル</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 『クラインガルテン』や『ダーチェ』 ・ 企業タイアップ

<p>保全(残す・伝える)</p>	<p>[自然環境]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼たんぼの歴史や成り立ちをあまり知られていない ・ 水が足りない 	<p>[文化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柿渋を復元させる <p>[自然環境]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柿渋を復元させる ・ 水と緑を復元するにはお金をかけるしかない ・ トトロの森の基金のような形を見沼たんぼにも活用できないか ・ イメージする要素が大切 <p>[人づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土愛、地域愛をどう伝えていくか
<p>人を呼ぶ・PR</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>国からの支援、応援</u>が必要だ ・ 国の制度を活用して、見沼たんぼを取り上げる <ul style="list-style-type: none"> ➢ 広く見沼を知ってもらう ➢ 見沼たんぼをもっと東京(外)にアピールし、人を呼び込む <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>PRによって支持者を増やす</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人のパワーが金のパワーを呼ぶ
<p>連携・ネットワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見沼たんぼでやっている様々なことを市民が知らないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>個々で活動している人たちを、もっとPRしていくべき</u> ・ 地道に続けている活動も大切だ ・ <u>活動団体の横のつながりを強化</u> ・ 点を線で結ぶ

②第2回

1) 実施概要

- ・開催日時：平成24年12月8日（土）10時～12時
- ・開催場所：片柳コミュニティセンター 第5会議室
- ・参加者数：6名

2) 結果まとめ

『見沼たんぼでやりたいこと、できるといいこと』（前回出なかった意見）

- 心身の健康づくり
- 目的がなくても来られる居場所づくり
- 写真展や絵画展など発表
- 大きな祭りやイベントの開催（多種多様な人が集まるきっかけ）
- 他の団体と連携した“遊び”の視点が生まれる交流
- 見沼たんぼの保全や役割を理解し共感してくれる人や企業への貸出し等荒地の利用促進

『見沼たんぼの新たな交流拠点に、どのような施設や機能が必要か』

- 見沼たんぼの魅力を楽しめる施設や自然景観をつなぐ歩く環境の改善
- 見沼の環境を学べる施設があると良いが、既存の施設を活用していく
- 小学校の農作業体験を促進させたり、環境学習を総合的学んだり教育プログラム
- 見沼たんぼをテーマにしたNPOなどが集まる拠点

交流の場づくりを考えるにあたって

- 見沼たんぼの優れた特長をベースに交流を考える
- 交流の場を考えようとする各論になって散らばってしまうため、「水環境を守る」などまちづくりの“柱”に沿った話し合いをしていきたい
- まちづくりの“柱”と交流の目的との関係性をはっきりさせる

3) 詳細

見沼たんぼで やりたいこと、できるといいこと		交流する人	必要な施設や機能はなんですか？
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康づくり スポーツ、レクリエーション カー ウォーキング 高齢者の人も楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 多世代 地域住民 (現在は地元民が多い) 	<ul style="list-style-type: none"> 岩槻文化公園(槻の森公園)は、体育館やトレーニング室、武道場、陸上競技場、テニスコートなど、スポーツ施設が集結されたスポーツ活動の拠点として優れているので参考になるのではないかと スポーツ施設ではなく、自然とふれあい自然の中を歩く(歩く環境)
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 見沼たんぼの点在する魅力(施設や自然環境)を歩いて結ぶ 見沼の環境を学ぶ 		<ul style="list-style-type: none"> 見沼たんぼの魅力を楽しめる施設(くらしっく館や見沼自然公園、万年寺などの由緒ある神社仏閣)や自然景観をつなぐ歩く環境(：道路環境の改善) 見沼の環境を学べる施設があると良い。さぎ山公園の部屋など空いている既存の施設を活用する 芝川沿いの公園を活用 新しいハコモノをつくるのが交流の場ではない
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの川 再生運動 水環境を守る・整える 東縁の景観(桜並木)や自然とのふれあいを楽しむ 自然の中を歩いたり、自転車で走ったりする 		<ul style="list-style-type: none"> 自然とふれあい自然の中を歩く(歩く環境) 四季を楽しめる拠点 一望できる所
農作業体験	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに農業体験をしてもらい、見沼たんぼに関わってもらおう 他の団体と連携すると、“遊び”の要素が生まれ、農の新しい取組ができるのではないかと。作る、食べる、遊ぶ。 “遊び”という視点も大切 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども 学校 教育委員会 農業ボランティア 活動団体 コーディネーター 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校(小学生)の農作業体験を促進させる教育プログラム 宮代町の主要施策のひとつ『新しい村』では、年間を通じて、農業体験や農業に関するイベントや講座を開催する。コミュニティを創造する「農の家」の整備や、業として成り立たせる直売所の開設など、農のまちづくりをコンパクトに集約させ実践している。 食べる場所
子どもの教育	<ul style="list-style-type: none"> 見沼たんぼをフィールドにして学んだり遊んだりして、もっと身近に感じてもらう 		<ul style="list-style-type: none"> 見沼たんぼを活用した教育プログラム 環境教育の社会科見学先となっている南部浄化センターに加え、学年(年齢)ごとに繋がりある学び方で、見沼をトータルで学ぶプログラム
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 目的がなくても来られる居場所づくり 	誰でも	<ul style="list-style-type: none"> 福祉的なもの 目的がなくても来られる立ち寄れる場所 福祉農園

連携	・見沼たんぼをテーマとする活動や取組	・見沼たんぼをテーマに活動する団体など ・市民 ・行政	・見沼たんぼ活動センター ・NPO が集まる拠点。市民が活動に参加しやすくなる ・見沼たんぼをテーマにした拠点 ・県政や市政の連携 ・行政の横連携
まつり	・大きなまつりを開催することで賑わい、多種多様な人が集まる	多 種 多 様 な 人 たち	・大きなまつりやイベントによる求心力
その他	・写真展や絵画展など発表（発信）する	地元民 来訪者	・目的ごとに交流の場が必要 ・住民のパワーを活かす ・写真展や絵画展を開催するスペース ・お茶や蒸かし芋（地場野菜）で来訪者をもてなす

4) 交流の場づくりを考えるにあたって

<まちづくりを基盤に考える>

- ・まちづくりとして、見沼たんぼがどのような位置付けなのかはっきりとさせる
- ・見沼たんぼの将来的ビジョン。どのような姿を目指しているのか方向性をはっきりさせる
- ・市民の声をまとめていく取組を実践してほしい
- ・“動き”がもっと目立つように進めてほしい
- ・見沼たんぼの優れた特長をベースに交流を考える。（水や緑の環境、生態系、首都圏近くに残された広大な緑地 など）
- ・交流の場を考えようとすると各論になって散らばってしまうため、「水環境を守る」「まちづくり」といった“柱”に沿った話し合いをしていきたい
- ・まちづくりの“柱”と交流の目的との関係性をはっきりさせる
ゴミ拾い活動や子どもの農作業体験に見沼たんぼを活用するのではなく、
「見沼たんぼの水環境を守る」ことを“柱”に、「自然環境保全」するためのゴミ拾い活動や、「見沼たんぼの歴史や役割を学ぶ」ための農作業体験とする

<荒地の利用促進>

- ・新都心に近い方は荒廃が進んでいる→交通の便もいいので、荒地を有効活用できないか
- ・耕作放棄地がどんどん増えていく→見沼たんぼの保全や役割などを理解し共感してくれる人や企業に貸し出していく
- ・高速道路による見沼たんぼの分断が危惧される

(3) Minucomi 合同発表会（第3回懇談会）

■プログラム

1. 開会	・開会 ・さいたま市挨拶 ・事務局紹介 ・配布資料の確認、会の進め方について	さいたま市みどり推進課
2. 見沼たんぼアクションプランの紹介	・アクションプランの紹介 ・市民プロジェクト3の進め方	さいたま市みどり推進課
3. 交流拠点の事例紹介	・『赤ちゃん八百屋』 ・『CAFE 風のえき』	籠橋菜々子さん 浅野由佳さん
4. 発表と意見交換	・緑区 ・見沼区 ・さいたま市若手職員自主研究グループの発表 ・質疑応答、意見交換	有坂さん 斉藤さん さいたま市都市計画課
5. 今後の予定 来年度の予定		さいたま市みどり推進課
6. 閉会	・閉会のあいさつ	さいたま市みどり推進課

司会進行：小野崎（パシフィックコンサルタンツ）

■合同発表会の様子



①実施概要

- ・開催日時：平成25年1月19日（土）10時～12時
- ・開催場所：浦和コミュニティセンター14会議室
- ・参加者数：23名

②各グループの発表

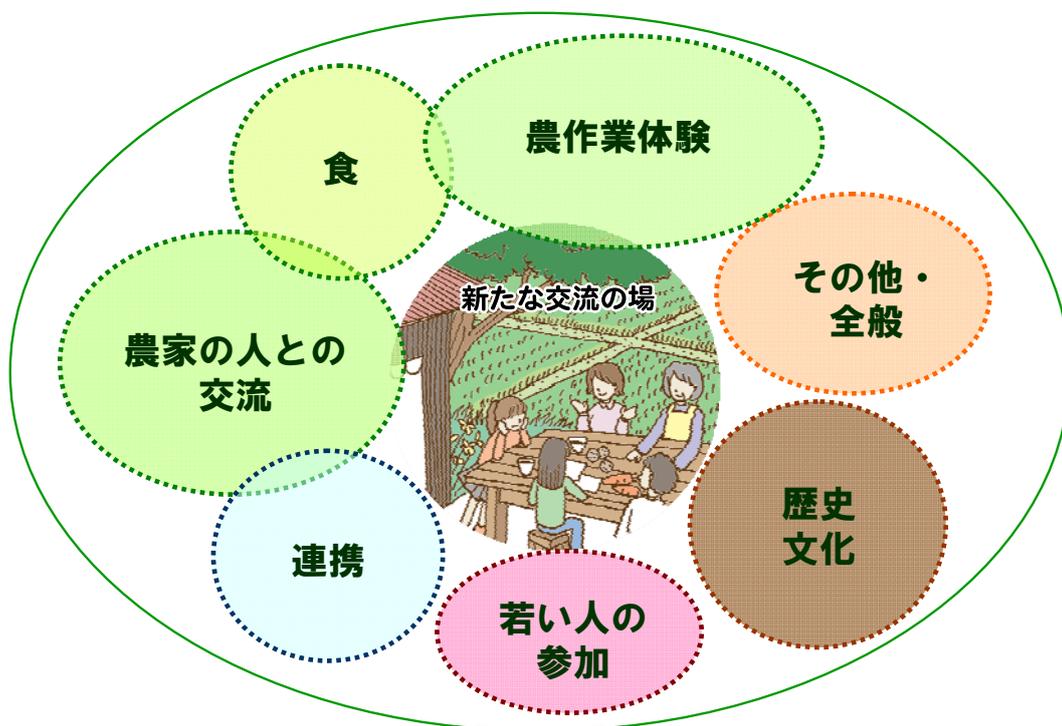
1) 緑区グループ

交流をとおして、見沼たんぼの農業・農を元気に！

見沼たんぼの貴重な空間は、長い間農業によって守られてきたものであり、農業者と市民の交流も含めた様々な交流をとおして、見沼たんぼの農業や農を元気にすることが話題の中心にありました。

「農家の人との交流」「農作業体験」「食」「連携」「和歌人の参加」「歴史・文化」「その他全般」というキーワードを導き出し、それぞれのテーマについて、やりたいことやできるといいこと、また必要な施設や機能などをまとめました。

<こんな交流の場があるといいな>



●農家の人との交流

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 農業者の意見を聞きたい、もっと気軽に話したい
- ・ 農家の人はどういう交流をしたいか聞きたい
- ・ 農家の実態について、互いに共通認識を持てると良い

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 話をしたり聞いたりできる場
- ・ 本格的な農業と楽しみと場を分ける
- ・ 分断せず交流したい



●農作業体験

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ ボランティアが農家を手伝いに来て農地が守られる仕組みづくり
- ・ さいたま市内外から人が来て、みんなで農を楽しむ
- ・ 見沼代用水の利活用

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 農家の人から情報を得られる場
- ・ 助けが欲しい農家と、農作業をしたい一般市民とを結びつけるシステム



●食

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 市民農園の野菜を売る常設の場や加工品を売る場

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 市民農園の野菜を売る常設の場
- ・ 加工品を売る場



●連携

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 興味のある人、市民が気軽に活動に参加ができる
- ・ 活動団体の横のつながり
- ・ 多種多様な人や要素が集まるしかけづくり

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 誰でも活動に参加しやすく、少しハードルを下げる
- ・ 地域内で立ち話ができるような場
- ・ フランクに集まれる
- ・ 個々の活動団体を PR⇒ゲリラ的なテント村など
- ・ イベントなどで活動団体が情報発信する機会をつくる



●若い人の参加

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 異世代(若者と高齢者など)間交流による活性化
- ・ 若者が立ち寄れる施設
- ・ 若者が関心をもつきっかけづくり

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 子どもや若者が「今日は見沼たんぼに行こう!」と言えるような場所
- ・ 人(若者)が行きやすい場所



●歴史・文化

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 見沼の歴史、文化を活かした、見沼ならではの美しさを広める取組
- ・ 地域で大切に繋いできた文化を大事にしていきたい

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 地域を守ってきた人、守ってきた歴史、伝統に敬意を払い、大切にしつつも公に発表する場
- ・ あまり表に出てこられない人たちがもっと出られるような場
- ・ 民家園などの既存施設の有効活用



●その他

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 具体的に将来どんな姿にしていくのか、見沼たんぼの将来的ビジョンを話し合い、共有する

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 活用されていない場所を掘り起こし拠点にするなど、既存施設や自然のフィールドの活用
- ・ FB やブログ等の SNS の集まりの場と、顔を合わせる集まりの場の2つが必要だ
- ・ ハコモノよりシステムづくりが重要

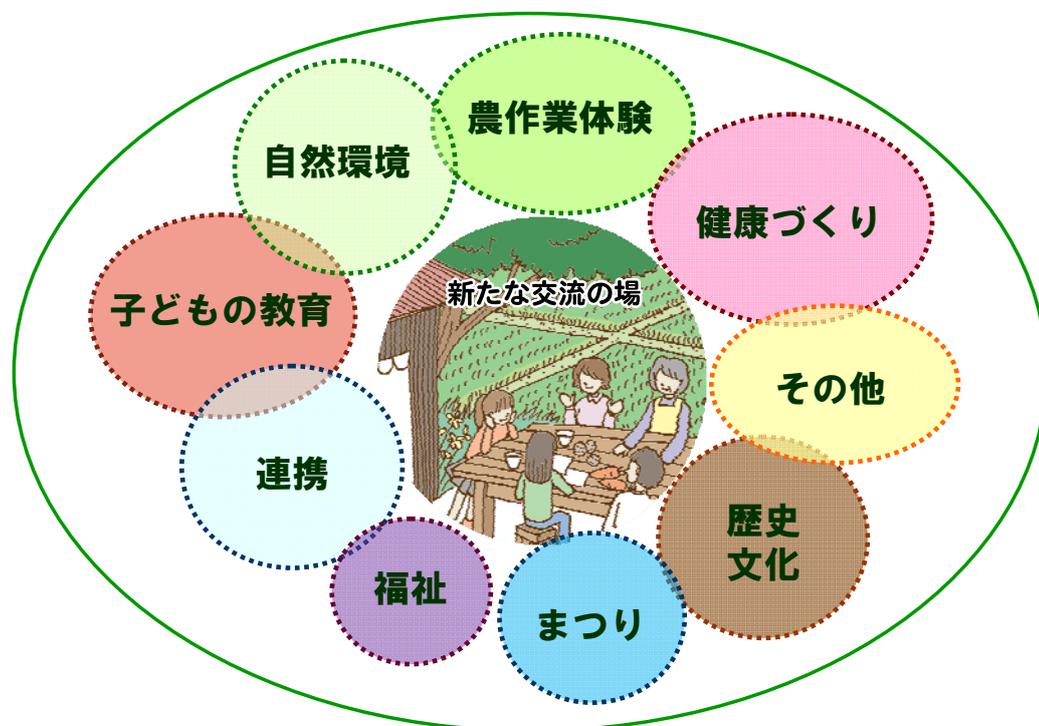
2) 見沼区グループ

様々な魅力にふれ、見沼たんぼを好きになろう！

見沼たんぼには、様々な魅力や貴重な資源があり、私たちにいろいろな価値をもたらしてくれます。話し合いの中で出された意見の多くは、見沼たんぼの多様な魅力を活かした様々な交流をとおして、多くの人が見沼たんぼに関心を持ち、大切にできるようになる・・・そのような意識があるように思いました。

「農作業体験」「自然環境」「健康づくり」「子どもの教育」「歴史・文化」「連携」「福祉」「まつり」「その他」というキーワードを導き出し、それぞれのテーマについて、やりたいことやできるといいこと、また必要な施設や機能などをまとめました。

<こんな交流の場があるといいな>



● 農作業体験

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 子どもたちに農業体験をしてもらい、見沼たんぼに関わってもらおう
- ・ 他の団体と連携し、農の新しい取組を生み出す
- ・ “遊び” という視点も大切

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 小学校の農業体験を促進させる教育プログラム
- ・ 農業体験や農業に関するイベントや講座の開催、コミュニティ



の創造の場の整備、直売所、食べる場所など、充実した宮代町の「新しい村」が参考になる

●子どもの教育

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 見沼たんぼをフィールドにして、学んだり遊んだりして、もっと身近に感じてもらう

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 見沼たんぼを活用した教育プログラム
- ・ 環境教育の社会科見学先となっている南部浄化センターに加え、学年（年齢）ごとにつながりがある学び方で、見沼をトータルで学ぶプログラム



●自然環境

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ ふるさとの川・再生運動
- ・ 水環境を守る・整える
- ・ 東縁の景観（桜並木）や自然とのふれあいを楽しむ
- ・ 自然の中を歩いたり、自転車で走ったりする

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 自然とふれあい自然の中を歩ける環境
- ・ 四季を楽しめる拠点
- ・ 一望できる場所



●健康づくり

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 心身の健康づくり
- ・ ウォーキング、カヌーなどのスポーツやレクリエーション
- ・ 高齢者の人も楽しめるもの

「こんな施設や機能が必要」

- ・ スポーツ施設が集結された岩槻文化公園は、スポーツ活動の拠点として優れているので参考にしたい
- ・ スポーツ施設ではなく、自然とふれあい、自然の中を歩くような環境づくり



●歴史・文化

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 見沼たんぼの点在する魅力（施設や自然環境）を歩いて結ぶ
- ・ 見沼の環境を学ぶ



「こんな施設や機能が必要」

- ・ 見沼たんぼの魅力を楽しんだり、環境を学んだりできる既存施設（くらしっく館や見沼自然公園、万年寺など由緒ある神社仏閣）や、自然景観をつないで歩くことができる道路環境の改善
- ・ 既存の施設の有効活用
- ・ 芝川沿いの公園を活用
- ・ 新しいハコモノを作ることが交流の場づくりではない

●福祉

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 目的がなくても来られる居場所づくり

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 福祉的なもの
- ・ 目的がなくても気軽に立ち寄れる場所
- ・ 福祉農園



●まつり

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 大きなまつりを開催することで賑わい、多種多様な人が集まる

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 大きなまつりやイベントによる求心力



●連携

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 見沼たんぼをテーマとする活動や取組

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 見沼たんぼをテーマにした拠点「見沼たんぼ活動センター」
- ・ 市民が活動に参加しやすくなるような、NPO が集まる拠点
- ・ 県政や市政の連携・行政の横連携



●その他

「やりたいこと、できるといいこと」

- ・ 写真展や絵画展などを発表（発信）する

「こんな施設や機能が必要」

- ・ 目的ごとに交流の場が必要
- ・ 住民のパワーを活かす
- ・ 写真展や絵画展を開催するスペース
- ・ お茶や蒸し芋（地場野菜）で来訪者をもてなす

3) 交流拠点の事例紹介

◇『赤ちゃん八百屋』 ほっと村運営委員・赤ちゃん八百屋店長：笹橋菜々子さん



食と農を通じた交流

「ほっと村物語」の紙芝居を使って『赤ちゃん八百屋』の紹介がありました。『赤ちゃん八百屋』の活動拠点が出来るまでの経緯は、配布資料の新聞記事（巻末資料に掲載）で紹介されました。

活動の拠点は、北区の関連の施設での受託事業と、『赤ちゃん八百屋』の2つです。『赤ちゃん八百屋』は拠点を作ることが目的ではなく、何かしたいという思いを温めるためには拠点が必要だということが、活動を通じてあふれてきて、このような活動になりました。特別な会に入会せずとも、ふらっと立ち寄れて様々な価値観に触れられる場所というものを大切にしています。野菜を売ったり、カフェを運営したりすることで、誰でも気軽に立ち寄れる場になります。立ち寄った方にお茶を差し出すと、そこで会話が生まれ交流が始まるのです。

主な活動を紹介します。「ちくちくボランティア」は、立ち寄った方やランチに来た方に、ひと針ひと針縫ってもらって、『赤ちゃん八百屋』で使う赤ちゃん用の掛け物をパッチワークで作ろうというもの。縫いながらだと会話も弾むのです。「臨月おにぎり」は、妊婦さんが握った種入り梅干のおにぎりを食べると赤ちゃんに恵まれるという言い伝えから、妊婦さんと赤ちゃんがほしい人との交流活動です。「イクメンネット」は男性たちに立ち上げてもらい、学びの場を企画してもらっています。「ほっと縁市」は、北区との協働事業で、北区から家賃と人件費の補助を受けて、事務局と商品開発の拠点として行っています。商品開発の一環で、味噌仕込みや、塩麴スコーンなどのからだに優しく安心して食べられるおやつの開発をしています。

この場所で暮らす確かさを育む 地域コミュニティの再生

スタッフについてもお話します。キッチンの中は、朝9時半から2時までは幼稚園の子どもをもつお母さん方が中心で、午後1時ごろからは赤ちゃんをおんぶしたお母さんが中心。通して見守り兼販売のスタッフがいます。スタッフは有償ボランティアという形ですが、今後は最低時給を支給できるようになりたいです。また、現在専従スタッフがない点も課題です。

市民が交流拠点をつくる良さは、交流拠点をつくるまでのスタッフ間の交流が意味深く、スタッフ間で言いにくいことまで話し合っ作っていける関係、それが地域のコミュニティの再生にも繋がるところです。交流拠点の効果は、わたしにもできるということは、あなたにもできるということで、まちづくりに参画してくれる方が増えていくこと。住んでいるところを良くしたいという前向きな心であふれ、その場所で生きていくことの確かさ、気持ちよさは何事にもかえられないものです。

地域みんなが知り合い。みんなで見守る

自分の子どもに関しては、一緒にごはんを食べられ、一緒にトイレに行ける大人が増えました。『赤ちゃん八百屋』のそばに、家族でない大人たち、おじいちゃんおばあちゃんが見守ってくれているという感じ。地域においてみんなが知り合いであることは、防災の観点でもとても大事なことだと思います。小学生も自然に出入りしており、学童でもない、児童館でもない、こういったまちの拠点が、色々な世代にとって意味のあることだと実感しています。

北区に畑を作りたいというももとの思いがあります。土地も農園ありませんが、北区に畑を作ることを目標に日々頑張っています。

常設の場はとても大切だと思います。こういう交流拠点ができました！といわれて、その日に何か効果が出るわけではなく、毎日毎日顔を突き合わせて話をして作っていく、それがとても大切なことです。

交流拠点づくりを考えると、「食べる」ということを、ぜひ入れていただきたいです。「食べる」ことで、心がほぐれ、皆さんの会話がどんどん進んでいくと思います。交流拠点として意味のあるものだと思います。

◇『カフェ風のえき』 NPO 文化学習協同ネットワーク若者支援部：浅野由佳さん



若者の社会参加支援

不登校、ひきこもりになった若者が働ける場を作りたい、社会に繋がる場を作りたいという思いでスタートしました。前身は補講塾で、90年代に入ってから不登校の子どもたちが昼間に通える場所としてフリースペースを開始し、その後、2004年に、安心して働ける場として本部を改装して、コミュニティベーカリー風のすみかという天然酵母のパン屋を作り、青年たちを受入ながら始めました。

協働事業として出発

2011年の夏に、三鷹市と三鷹市観光協会と3者の協働事業で『カフェ風のえき』というコミュニティカフェを始めました。観光スポット 風の駅がもともとそこにあって、カフェが付属しているという形になっています。コミュニティカフェというと若者には抵抗があるので、あえてコミュニティとつけず、ジブリのお客さんも地元の方も若者も、誰もが立ち寄れるように、名前を『カフェ風のえき』としました。

『カフェ風のえき』は若者支援の場であり、以前は引きこもりであったり不登校だった若者が、そこにお客さんとして通ってくる若者と気軽に会話をしたり、地域の人と話をしたりすることができる場です。スタッフや現場にいるアルバイトがそれをコーディネートする役目となっています。

地域との連携

『カフェ風のえき』は、もともとはガソリンスタンドで、市の管理下にあり、躯体はいじってはいけないことになっています。そのため大幅な改修はできませんので、席数は店内に8席、テラスに8席の小さな店です。メニューは、相模原で耕作放棄地を借り、その農場で採れる無農薬の小麦や野菜を使ったピザがメインです。農場には常勤スタッフが3名おり、年間を通して生産活動をし、そこで作った小麦を使ってパンを作り、そのパンの生地ですべてピザを作るといった、一連が繋がるような形になっています。ピザは自分たちが作った野菜だけでは賄えないので、地元の無農薬野菜を作っている農家さんと提携しています。珈琲については、市内の焙煎のお店の協力を得てその豆を使い、紅茶は三鷹のお店からというように、三鷹のいいお店を来訪者に紹介するのも私たちの役割であり、市内の店舗さんから委託販売という形で商品を請け負って販売しています。

地域ならではの例えば、ピザの名称にも工夫しました。野菜をふんだんに使っていることが売りなので「野菜たっぷりピザ」という名前をコンセプトどおりにつけていたがブランド力がありません。そこで「三鷹の森ピザ」という名前にしたところ、イメージが変わり、ブランド力がアップし売れるようになりました。

まちや公園に人を流すことも私たちの事業のひとつです。目の前には、大きな井の頭公園があります。公園で食べてもらうためにテイクアウトメニューを増やしています。農場で沢山とれたさつま芋を使った“つぼ焼き芋”が新しいテイクアウトメニューです。

安全な食

商品の販売については安心できる食の提供として、無農薬を推進しています。そして、誰さんが作ったりんごジュースです、と顔の見える提供を行っています。珈琲はネルドリップで提供しています。地域の人が指導してくださって、若者が技術を学んでいます。

人がつながり 新たに生まれる

交流拠点が始まってから、色々な提案が持ち寄られ、イベントや人との繋がりなど、新たに出会った人がたくさんいます。はじめの段階で固めずにゆるい縛りの中で、自分たちのやりたいことや思いに合う人たちを、どんどん引き込んでいけるような場所にしていくことが、その拠点の魅力になり、更なる発展した大きな企画ができると思います。

みんなが Win-Win

訪れた人が何かを残せるような企画やリピーターを増やすような企画、小さいながらも、地域のお店にとっても、我々にとっても Win-Win の関係を目指し、様々な企画をスタッフの中から提案して行なっています。(例：地域でお店をやっている人がミニミニワークショップをやる。季節限定で子どもも楽しめるようなメニュー、地域の居酒屋さんとのコラボ、季節を感じさせるようなイベント三鷹在住、在勤、在学のアーティスト自作のものを常設で販売、三鷹のお土産、三鷹のはちみつ、キウイを使ったもの、フェアトレードものなどの販売。ガラス面にお客さんに絵を書いてもらったり、アーティストがアート。駅からハイキングのタッチ場所として集客アップ。関連のある農家さんと一緒にマルシェ。三鷹発のシンガーを育てる「金のたまご」イベント、大人が楽しむ紙芝居などなど)

交流拠点をやることの意味としては、地元のお客さんが定着してくれて、10代~90代の幅広い年齢層の人が来られる場所、若者が気軽に来られる場所があることです。

食と農をつなぐ事業ということでは、皆さんの見沼たんぼの交流拠点づくりとも共通しています。自分たちの足元で出来ることから始め、それをどう広げていくかが課題とまります。6次産業化を作っていくことが目標です。

4) 意見交換

見沼たんぼに新たな交流の場をつくるにあたって、各グループ（緑区、見沼区）で話し合ってきたことを発表しました。交流の場づくりの先輩から、感想やアドバイスをお願いします

- さいたま市の事業の一環として、始めるきっかけ・入り口が用意されているということは強みだと思います。後は賛同者をどう集めるか、思いをどう発信して共感する人たちを増やしていくかだと思います。応援してくれる人がいれば、形になっていくのではないのでしょうか。（カフェ風のえき 浅野さん）
- 既に勢いを感じました。思いのあるところにしか始まらない、意思あるところに道は開けると思うので、そのままやっていけば良いと思います。
目的がなくても行ける居場所づくりという所にとても共感をいただきました。皆さんの交流拠点も、分け隔てなく赤ちゃんから高齢者までが集え、そこに農作業ができれば素敵なところになると思います。その交流拠点には、ぜひ「食べる」という行い（活動）も入れていただきたいです。「食べる」ことで、心がほぐれ、打ち解けて会話が弾みます。（赤ちゃん八百屋 籠橋さん）

参加された方から質問や感想などお願いします

- 今も昔も形は違ってても基本は同じなんだと感じました。要は人との結びつきです。それが広がっていく。今も昔も共通しているものに立ち返って考えれば、我々がやっていることは決して道をあやまっていなと、自信を持ってやっていこうと思いました。
- 10年以上前に埼玉県のスーパースタイルを鳥瞰図に残したいと思い、秩父を始め見沼たんぼの鳥瞰図を描きました。東縁は素晴らしい景色が残っていますが、このまま行動を起こさないと西縁のように工場が建ち、この素晴らしい風景がなくなってしまう。この財産を守らなくてはなりません。浦和や大宮など都心に住んでいる「見沼ってなに？」という人たちに、もっと見沼のスーパースタイルを伝えるべきだと思っています。夕陽を見るだけでも良いんです。そこに行って見て体験することを、周りに広めるような活動をしていけば、賛同者も増えてくるのではないかと思います。

第4章 今年度のまとめと今後の進め方

1. まとめ

(1) 本年度のまとめ

本年度の事業は、見沼たんぼに新たな交流の場をつくるにあたり、「見沼たんぼがどのようにになると良いか」「見沼たんぼでやりたいこと・できるといいことなにか」について、見沼たんぼの新たな交流の場に想いを持つ人たちが語り、どんな交流の場にするか、さまざまな意見を集めることでした。

もっとも多く意見が集まったのは、歴史・文化・自然などの様々な魅力や貴重な資源をもった見沼の環境を保全することでした。自然を守ったり、活かしたりする活動を通して、学びや体験、あそびなど多世代交流の場ができることを望む声が多く出されました。

もうひとつ、特に重要なテーマのひとつに「農業」があがりました。

見沼たんぼは、長い歴史の中、農業によって守られてきたこと、農家の人々の努力により維持されてきたことを十分に考慮したうえで、見沼たんぼでの交流、見沼たんぼの利活用を進めていく必要があるという共通の認識が出されました。

ただし、現在の社会状況を踏まえると、従来の「農業」の枠組みだけでは、見沼たんぼを保全していくことが困難であることを踏まえ、農家以外の方々も多様な形態で関わられる広義の【農】としての活動も取り入れながら、「農家の人との交流」や「農作業体験」を通して、見沼たんぼの農業や農を元気にすることを望まれていました。

また、見沼たんぼに限定した話だけでなく、さいたま市や地域全体のまちづくりの視点から、具体的に将来どんなまちの姿にしていくのかを考え、その中で、見沼たんぼの将来的ビジョンを話し合い、共有していきたい、という広い捉え方で検討が必要だとの意見も出されました。

(2) 課題

●人材の確保・地域連携

新たな交流の場づくりには、中心となる組織・団体・グループが不可欠で、その人材の確保をはかっていくことが必要となります。

さらに、交流の場をつくっていく中で、活動そのものに携わる人材を育成することや、その活動に賛同や協力など、関わる組織や人材を増やしていくことが大切です。関わる人“仲間”を増やし、地域に定着することで、継続的なコミュニティが生まれます。

新たな交流拠点は、様々な機能（交流）が期待されることから、それぞれの交流に関心があり、実際に地域で活動している団体や個人などが連携していくことが望まれます。

本年度の検討では、緑区グループ、見沼区グループともに 10 名に満たない参加者であったことから、新たな交流の場の整備にむけて検討を進める中では、より多くの参加者を得ていくことも必要と考えます。

● 他分野との連携・活動の取りこみ

Minucomi の中や、先進事例でとりあげた取組においても、子育てや食育、若者の就労支援など、地域の交流拠点には多様な視点に関係してくることが指摘されています。

これまでの Minucomi の参加者は、農業や自然環境などに関わりの深い方が多く、子育てや高齢者福祉などの分野の取組をしている団体等は参加していません。

前述した様々な団体・個人の参加を得る中では、これらの分野の活動団体等の意見や参画を得ることが必要です。

● 情報の公開・参加のし易さの確保

実際の交流の場と同様に、その検討段階においても、より多くの人に参加しやすい中で検討を進めることも求められます。

整備にむけた検討を進める中では、より多くの人に関わりやすい機会をつくっていくことも必要です。

2. 今後の進め方

市民プロジェクト『新たな交流の場の創出』は、アクションプランの計画期間（平成 24～28 年度）において、重点的に施策を展開し、5 年後の姿に、新たな交流の場を 1 箇所設置することを目標としています。5 ヶ年の目安となる工程は、下表が想定されており、平成 24 年度は新たな交流の場を語る会が開催されました。本年度の検討成果を踏まえ、平成 25 年度の進め方を以下に示します。

平成 24 年度（今年度）	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
（新たな交流の場を）語る会	考える会	つくる会		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>語ろう 見沼たんぼがどのようになるか。見沼たんぼでやりたいこと、できるかいいことはなにか。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>学ぼう 実践したい交流にどんな施設や機能が必要か。他地域の交流の場の事例を紹介。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>語り合おう グループごとに話し合った結果を発表。交流の場の実践者から、成功談・失敗談などを聞いて学ぶ。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ、基本方針の検討 ・運営体制の検討 ・事例調査 ・候補地の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備組織の設立 ・整備計画の検討 ・管理運営計画の検討 ・地域との協力体制の確認 等 		<p>1 箇所設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置準備 ・運営スタッフ募集 ・広報 等
市民有志、既存活動団体 農業者（別途話し合い）	市民、活動団体、 農業者等	推進組織、仲間、協力者等		

（1）検討事項

市民プロジェクト『新たな交流の場の創出』は、誰もが立ち寄れる見沼たんぼとなるように、既存施設等を利用し、情報発信や休憩、農山物直売等の機能を持たせた、「新たな交流の場」を創出することを目標としています。

そして平成 24 年度は「（新たな交流の場を）語る会」が開催され、見沼たんぼに期待される様々な交流の場（機能）が参加者から提案されました。

これを受け、平成 25 年度では、市民が期待する交流の場を実現するために必要な交流拠点のあり方（基本構想）を考え、平成 26 年度に予定される整備計画づくりの計画条件として整理していくことが必要と考えます。以下に平成 25 年度に検討すべき事項を整理します。

●整備テーマ・方針の検討

現段階では、交流拠点には「新たな交流の場」、「新たな交流を育んでいく施設」という整備テーマが設定されていますが、このテーマをより具体化し、どのような交流拠点を目指すのか方向性を明確にします。このため、本年度市民から提案された新たな交流を実現する上で、常設の交流拠点が果たす役割をより明確なものとするために、市民や来訪者による交流拠点の利用イメージや、交流拠点が見沼たんぼの地域づくりにどのように貢献するのかを考え、整備テーマとして整理します。

また、本年度の検討過程では既存施設の有効活用などの整備の考え方が一部示されていますが、この他、立地選定や運営体制、地域との連携など整備・運営にあたっての基本的な方針を整理します。

●導入機能・施設、運営プログラムの検討

交流拠点に設定された役割を果たすために導入すべき交流支援機能とその機能を発揮するための導入施設、運営プログラムについて整理します。

本年度の検討の中では、自然や歴史などに関する交流活動の支援機能は、既存施設で受け止めることが可能であるという意見が出されています。こうした意見を踏まえ、新たに整備する交流拠点が補完すべき基本機能としては、以下の3機能が想定されます。

- ビジターセンターとしての機能：見沼たんぼ玄関口としての情報提供、休憩などの機能
- クラブハウスとしての機能：交流活動に携わる市民・来訪者の活動拠点としての機能
- 農業振興施設としての機能：農産物の紹介や農業者との交流、農産物直売などの機能

上記の基本機能の是非、さらなる機能の追加も含めて整理します。

●運営体制とルールの検討

交流拠点は、市民や来訪者の見沼たんぼでの交流活動の夢を実現するための支援施設であり、夢を描いた提案者が運営の担い手として関与していくことが必要不可欠です。

このため設定された諸機能に対し、誰が担い手になるのか、どのような仲間集めが必要か、運営組織としてどのような枠組みが必要かを整理します。

また、新たな交流の場は、行政が参画し整備し、多様な立場の市民等が参加する新しい公共としての継続を目指しています。このため、収益の取り扱いや公益的事業への協力など運営ルールについても共通理解を得ていくことが求められ、25年度はそのための基本方針を検討します。

●整備候補地の検討

整備の基本方針を踏まえ、誰でも気軽に立寄れる交流拠点をつくるには、どのような場所が適しているかを検討します。

周辺公共交通からのアクセス、散策ルートや既存施設との位置関係、想定される交流活動からみた利便性などに配慮し、候補地を検討します。

(2) 検討体制

交流拠点は見沼たんぼを抱える各区に設置することが想定されています。

各区の交流拠点は、それぞれの区における見沼たんぼの利用や周辺資源、地域活動、農業等の状況により地域に適した内容としていくことが必要ですが、一方で見沼たんぼの入口として、各区で共通に整備すべき機能もあります。

そこで平成 25 年度の検討体制としては、各区の交流拠点が共通して有すべき諸機能・施設については緑区・見沼区合同で話し合い、各区の状況に応じた特有の機能については各区のメンバーで話し合う機会をつくる必要があります。

進め方としては、緑区と見沼区のメンバーに新規公募メンバーを加えて「見沼交流拠点づくり WS」を開催します。

全体会議で整備テーマ・基本方針、導入機能・施設、運営体制や運営ルールの基本方針を検討し、各区分科会で、各区における候補地検討及び独自の機能等を検討します。

(3) 検討メンバーの募集

「新たな交流の場」の整備にむけて、具体的な検討を始める段階では、実際にこの運営を担う気持ちを持ったメンバーの参画が不可欠です。

① 想定されるメンバー

メンバーの募集にあたっては「新たな交流の場」の運営に高い関心を持つ団体や個人を募ります。すなわち、今年度検討した望まれる交流要素を実現するために想定される活動を整理し、テーマを明確にして参加メンバーを募集するものとします。

具体的には、

- ・ コミュニティカフェの開設に関心のある団体や個人
- ・ 子育てや食育教育に関心のある団体や個人
- ・ 観光ボランティアに関心のある団体や個人
- ・ 農産物の直売所などに関心のある団体や個人
- ・ ギャラリーの開設に関心のある団体や個人

などに対し、新たな交流の場の運営管理への参画も視野にいれてワークショップに参加するように呼び掛けます。

② 募集方法

従来市の市報、区報や見沼たんぼホームページのほかに、それぞれのテーマに関するネットワーク（例 コミュニティカフェに関するネットワーク：カフェの公益社団法人 長寿社会文化協会（WAC）全国コミュニティカフェ・ネットワーク）や、市民活動サポートセンター、ボランティアセンターなどを活用してPRしていくことが効果的と考えます。

(4) 検討スケジュール

検討スケジュール案を以下に示します。

4月～ 5月	「見沼交流拠点づくりWS」の基本方針設定	
6月～ 8月	・「見沼交流拠点づくりWS」のメンバー公募 ・WS論点整理と材料収集整理	本年度のワークショップメンバーには継続参加を依頼
9月頃	第1回WS ＜主な議題＞ ・平成25年度調査の目的・目標・進め方の確認 ・平成24年度調査結果の確認 ・新たな交流拠点に関する意見交換	新たなメンバーを交えた検討のキックオフとして、WSの目的や進め方を確認し、新たな交流拠点への期待を話し合う
	第2回WS ＜主な議題＞ ・整備テーマ（見沼たんぼにおいてどんな役割を果たすのか） ・整備方針（整備にあたって考慮すべきこと、大事にすること） ・導入機能（利用者に対し何を支援する、利用者はどんなサービスを楽しむことができる）	整備コンセプトの検討
	第3回WS ＜主な議題＞ ・整備テーマ、整備方針、導入機能の確認 ・導入すべき施設や運営プログラム（と担い手）の抽出	整備コンセプトを固めながら、施設内容と運営プログラムを検討
	第4回WS ＜主な議題＞ ・交流拠点施設の運営体制・ルールイメージ ・市民と行政の連携・分担 ・地域住民との連携 ・地図上で候補地探し（各区に分かれて）	交流拠点施設の運営体制やルールの基本方針と整備候補地について検討
	第5回WS ＜主な議題＞ ・整備候補地の現地確認（各区） ・整備構想のまとめ	整備候補地の現地確認を行うとともに、交流拠点施設の整備構想として議論の結果をとりまとめる